

リンジーの笑顔の裏には



いつもニコニコして皆さんに英語を指導しているA先生のリンジーですが、私は彼女の境遇を考えると切なくなりません。彼女の笑顔の裏に隠された彼女の悲し
について今日は書きたいと思います。

リンジーとの出会いは、北中が開校した年の八月でした。日本の学校に勤めるのは初めてで、不安もきつと大きかったことでしょう。しかし、彼女は一日も早く北中職員の中に溶け込もうと、歓迎会にも参加して、日本語と英語を駆使しながら職員とコミュニケーションをとっていました。

同年の十二月には、彼女の両親が日本にやってきました。学校としては、この日ネイティブスピーカーが三人になったというだけで、授業にも参加してもらいました。左下は、校長室で撮影した親子三人のスナップ写真です。国は違っても、親子の関係はどこも同じだと思わせる微笑ましい光景でした。

この後、世界に新型コロナウイルス感染症が蔓延しました。彼女はアメリカに帰りたくても帰ることができなくなりました。そして昨年、悲しい悲しい知らせが彼女のもとに届きました。最愛の母親が病氣（感染症ではありません）で亡くなったのです。少しでも早く母国アメリカに帰りたいことがあったことでしょう。せめて葬儀には参加したかったことでしょう。しかし、それらはかありませんでした。写真の来日が、親子で過ごす最後の時間となってしまいました。理由は言わずもがな、「新型コロナウイルス」です。

私は何と声をかけてよいかわかりませんが、下手な英語を精一杯駆使して自分の気持ちを伝えました。すると彼女は悲しみをこらえ、精一杯の笑みと共に、日本語で「大丈夫！」という言葉返してくれました。

母親を失った悲しみを必死にこらえ、日本の中学生のために笑顔で英語を教えてくれるリンジー。彼女を見るたびに、「ここにもウイルスのために悲しみをこらえている人がいるのだ」と私はつらくなるのです。

皆さんは感じていますか、現在、新型コロナウイルスや変異株の脅威が、足音をたてずに私たちに近づいていることを。感染者が出ていないからと、安心してはいけません。今朝の新聞には、瑞浪市に初の感染による死亡者が出たと書かれていました。

感染の苦しみや悲しみは、リンジーのように感染していない人にもやってくる可能性があります。あります。感染した人、感染の心配のある人だけの問題ではないのです。全ての人間が一致団結してウイルスをやっつけましょう。

（五月二十一日記）

